

地域整備における意義からみたイベントの分類に関する研究

京都大学工学部 正 員 吉川和広
 京都大学大学院 学生員 秀島栄三

京都大学工学部 正 員 奥村 誠
 京都大学工学部 学生員○安達孝実

1. はじめに 最近、イベントが全国各地で実施され、まさに大流行の様相を呈している。イベントが十分な地域整備効果をあげるためには、開催地域の整備目的に応じた効果をもち、地域の実状からみて実施条件が満たされているようなイベントを選択する必要がある。その第一段階として、本研究ではイベントの類型化を試みる。なお、サンプルは「全国イベント計画総覧1990年度版」（産業タイムズ社）に掲載されている 695個のイベントを取り上げる。

2. 分類手法と分類結果 まず、10個のアイテムを取り上げて数量化理論Ⅲ類を適用し、情報の集約を行った。第3軸までは寄与率が高く、意味付けが可能であった。表-1のカテゴリースコアの値からわかるように、第1軸のスコアが負のものには社会還元的で参加者数が多く客層が不問であるといったカテゴリーがあり、正の値をとるものとしては利益追求、告知的要素、見本市がある。参加者が多いこと、客層不問、フェスティバル等は第2軸のスコアが負であり、参加者が少ないこと、専門家対象、シンポジウム、スポーツイベントは正のスコアを持つ。開催期間や開催間隔が長いこと、参加者が多いこと、集客圏が広いことなど大規模であることを示すカテゴリーは第3軸では負のスコアを持ち、逆に小規模なものは正となる。以上のことから、第1軸は営利性を、第2軸は専門性を、第3軸は規模を表わす軸であることがわかる。

次に、個体数量を用いてクラスター分析を行った結果、10個に分類する場合の意味づけが最も明確であった。個体数量図上での位置によって各分類の性質を判断すると、次の通りである。(図-1)

分類1, 2, 3, 4は第1軸の値が負であることから、社会性が強い一般的なイベントである。また第2軸、第3軸は値が小さい方から分類1, 2, 3, 4の順となり、この順で対象を限定した小規模なものとなっている。そこで、分類1~4を順に「博覧会」「大規模フェスティバル」「中規模フェスティバル」「小規模フェスティバル」と名付ける。また、分類5, 6, 7は第1軸が正であり営利的である。またこの順に第2軸、第3軸の値が小さくなるので、専門性や規模の違いがあることがわかる。分類5は特設会場を使用する大規模な「特設会場イベント」である。分類6は「会場使用の展示会・見本市」と名付ける。分類7は小規模で利潤追求的なコンサート、展覧会であり「コンサート・展覧会」と呼ぶ。分類8はどの軸においても原点の近くに位置している。これらは営利性、専門性、規模の面で一般的であ

表-1 カテゴリースコア

アイテム	カテゴリー	DIN1	DIN2	DIN3
開催間隔	1. 4カ月未満	1.83	-1.17	7.78
	2. 4カ月-半年	1.40	-0.22	2.43
	3. 半年-1年	-0.40	-0.15	0.24
	4. 1年-2年	2.17	1.80	-6.38
	5. 2年-5年	0.42	0.28	-2.84
	6. 5年以上	-0.14	-0.01	1.77
開催期間	1. 1日	-1.08	1.41	4.11
	2. 2日-5日	0.78	-0.88	-0.72
	3. 6日-15日	-0.28	2.28	-1.08
	4. 16日-1カ月	-2.81	0.43	-0.18
	5. 1カ月-半年	-1.54	-1.84	-7.21
	6. 半年-1年	-0.94	2.13	1.20
	7. 1年以上	-	-	-
参加者数	1. 1000人未満	1.97	8.88	-1.46
	2. 1000人-2000人	1.49	2.98	2.01
	3. 2000人-5000人	0.84	-0.39	3.94
	4. 5000人-1万人	-0.10	0.24	3.78
	5. 1万人-5万人	0.03	-1.23	0.77
	6. 5万人-10万人	-0.03	-2.03	-2.38
	7. 10万人-100万人	-1.85	-1.10	-3.28
	8. 100万人-1000万人	-1.81	-1.80	-18.6
	9. 1000万人以上	-	-	-
目的	1. 社会還元型	-2.35	0.48	0.05
	2. 利益追求型	2.08	-2.12	0.78
	3. 阿婆型	0.79	-1.53	-1.58
	4. 専門家要求型	1.40	4.95	0.70
類型	1. 内路型	-1.53	8.31	1.03
	2. 告知型	1.28	-1.87	1.00
	3. 阿婆型	0.18	-0.82	-1.20
	4. 専門家・選手招待型	-4.53	0.47	-1.82
集客圏	1. 世界	1.81	5.41	-3.82
	2. 日本国内	1.00	-1.17	-3.08
	3. 地方	0.33	-1.95	-0.02
	4. 都道府県内	-0.33	-0.88	2.15
	5. 複数市町村内	-2.52	0.58	1.60
	6. 単一市町村内	-2.42	0.62	3.75
	7. 単一市町村内一部	-1.78	6.79	0.95
	8. 招待イベント	3.21	3.53	3.47
開催地域	1. 大都市圏型	1.25	-0.14	-0.01
	2. 観光地型	-2.13	-0.20	0.15
	3. 閑静型	-3.48	0.73	2.29
	4. 一般地方市町村型	-2.28	0.37	-0.40
開催場所	1. 会場使用	1.31	0.03	0.57
	2. 特設会場設置	0.73	-0.77	-5.74
	3. オープンスペース	-3.51	0.05	-0.58
企画	1. フェスティバル	-3.84	-0.11	-1.58
	2. 見本市・展示会	1.69	-2.17	-0.85
	3. シンポジウム	2.35	8.53	-4.51
	4. スポーツイベント	0.18	1.81	1.88
	5. コンサート・展覧会	-0.32	-0.13	3.71
	6. コンテスト	-0.43	-0.01	7.55
	7. 博覧会	-2.14	-3.87	-32.4
	1. 少年層	-2.50	-1.38	0.05
	2. 青年層	0.74	0.91	8.35
	3. 中高年層	2.35	-3.14	-1.83
客層	4. 老年層	-	-	-
	5. 少年層+青年層	0.18	-0.35	5.89
	6. 少年層+中高年層	0.10	-0.84	0.75
	7. 青年層+中高年層	1.69	-2.81	-0.08
	8. 青年層+老年層	-0.37	-2.81	-1.87
	9. 中高年層+老年層	-0.81	-1.29	-3.37
	10. 年齢層不問	-1.84	-0.19	-1.10
	11. 専門家・選手層	2.53	3.81	-0.65

Kazuhiro YOSHIKAWA, Makoto OKUMURA, Eizo HIDEISHIMA, Takami ADACHI

るといえる。また、分類8では企業が関与する場合が多い。そこで「標準企業型イベント」と呼ぶことにする。分類9、10は以上のものと比較して第2軸の値が大きく専門性が高い。特に分類10は専門性が非常に強い。そのため、分類9を「スポーツ・シンポジウム」と呼び、分類10を「専門的シンポジウム」と呼ぶことにする。

3. 主催者によるイベントの種類による違い

ここでは各イベントがどのような主催者団体によって実施されているかを調べる。(表-2)

社会還元型である分類1～4の主催者団体は自治体や実行委員会であり、規模が大きいものは都道府県や大都市等の上位自治体に限られる。上位自治体は大規模なイベントの実施条件を満たす都市基盤を持つので、博覧会や大規模フェスティバルのような総合的な地域整備効果を持つイベントを実施することができる。また、少数ながら企業が社会還元型イベント主催する場合も存在する。利潤追求型イベントである分類5～7については企業主催が大半を占める。その際、1社が主催し、数社が協賛・後援するという場合が多い。大規模になるとイベントの専門機関を設置して実施するのが効率的であるため、実行委員会主催が増加する。自治体もこの種類のイベントを実施する場合があるが、それは上位自治体に限られている。分類8(標準企業型イベント)は実行委員会をはじめ、多くの種類の主催者団体によって実施されているが、自治体よりも企業が積極的に取り組んでいる。分類9(スポーツ・シンポジウム)、分類10(専門的シンポジウム)はともに非営利団体と実行委員会によって主催される場合が多い。上位自治体や企業、個人主催の場合も少数だが存在する。

以上より、イベント規模が大きくなると、実施条件を満たすことが難しくなり、大規模な主催者団体に限られてくることが明らかになった。例えば、社会還元型イベントでは上位自治体に限られる。利益追求型イベントでは単一企業主催から複雑な企業の主催体制となり、さらに大規模になると実行委員会設置につながる。また、大阪府のような大都市圏の上位自治体は非常に多くの種類のイベントを主催しており、既にイベントを地域整備の一つの戦略として用いていることがわかる。

4. おわりに 本研究は、イベントの類型化について考察したものであるが、今後はイベント担当者に対するヒアリングやアンケート等を実施して各イベントの実施条件や地域整備効果を明確にし、イベントの計画的手法を確立していきたい。

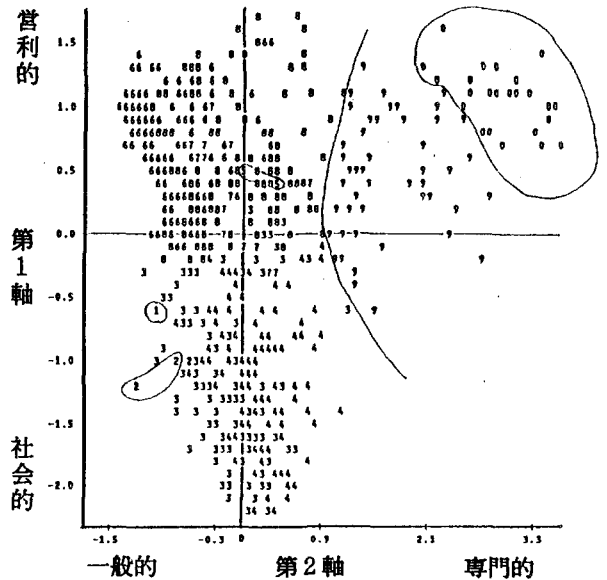


図-1 サンプル数量図(第1軸×第2軸)

注) 0は分類10を示す

表-2 各分類ごとの主催者団体

分類 主催者 団体	1 博覧会	2 大規模 フェス	3 中規模 フェス	4 小規模 フェス	5 特設会場 イベント	6 見本市	7 展示会 サート	8 標準企業 型	9 スポーツ	10 専門的 シンポ	合計
国	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2
上位自治体	2	3	38	33	0	6	2	11	4	2	101
下位自治体	0	0	17	21	0	0	0	2	1	0	41
単一企業	0	0	4	6	0	30	5	30	3	0	78
企業複合体	0	0	3	3	0	24	1	18	5	2	56
企業協賛	0	0	2	4	0	5	10	12	0	0	33
非営利団体	0	0	5	12	0	30	0	26	24	16	113
実行委員会	0	1	49	43	2	80	5	66	12	11	269
個人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
合計	2	4	119	123	2	175	23	165	49	33	695

注) 数字はイベントの個数を示す